

大原社会問題研究所五十年史

II 創立当初〔一九一九～二二年〕

所員の充実

一九一九年 大正八年 創立総会を終えて東京に帰った高野氏は、ただちに所員の充実をはかり、二月一四日には久留間氏に会い研究員として採用することを決定し、また同日、東大経済学部助教授森戸辰男氏に研究嘱託となるようにすすめ承諾を得た。また三月一四日には櫛田民蔵、森戸両氏と会い、櫛田氏に入所をすすめた。この時櫛田氏は、先に同志社大学法学部長、ついで大阪朝日新聞論説委員の地位を辞してのち東大経済学部助手として経済学の研究に没頭しつつあったが、高野氏の勧誘により研究嘱託となった(四月一日)。

高野氏はたびたび大阪東京間を往復して、大原氏はじめ各委員と協議し、人事を決定し、事業の開始について種々配慮した。まもなく愛染園内の事務所には庶務主任として鷹津繁義氏が就任し、倉紡内に設けられた臨時の図書室には、森川隆夫氏が図書主任として仕事を始めた。東京では、四月一日より京橋区山城町六番地(数寄屋橋畔)の統計協会の一室を借りて研究所東京事務所とし、久留間研究員はそこに勤務しつつ、消費組合実態調査を始めた。創立二ヵ月目の四月における両研究所の主要なスタッフの氏名はつぎの通りである。

大原社会問題研究所

委員 河田嗣郎 米田庄太郎 高野岩三郎

研究員 久留間鮫造 戸田貞三

研究嘱託 森戸辰男 櫛田民蔵 北沢新次郎

臨時嘱託 銅直勇 植田好太郎 高山義三

庶務会計主任 鷹津繁義

図書主任 森川隆夫 司書 内藤赳夫

外に事務員数名

*ただし戸田貞三氏は一九一九年八月、内藤赳夫氏は七月にそれぞれ就任した。また高山義三氏は同年一二月辞任した。

大原救済事業研究所

委員 小河滋次郎 高田慎吾

研究員 暉峻義等 大林宗嗣

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

